

優秀賞

登校はんのみんなありがとう

山口県 周防小学校 三年
田中 陽奈子

わたしが受けた親切は、登校中に大けがをしたとき、登校はんのみんなが助けてくれたことです。

わたしは二年生のときに、学校へ行く道の田んぼ道でころんで、ひざをすりむいて、血がたくさん出しました。

なくのは、ギリギリがまんしたけれど、とっってもいたくて、血は出るし、（もう歩けないよ……）と思いました。

そのとき、六年生のはん長のお姉さんが、

「だいじょうぶ？ 歩ける？」

と声をかけてくれました。すると、少し元気がわいてきて、

「少し、だいじょうぶ。」

と言えて、立ち上がれました。

登校はんのほかの学年の男の子たちも、

「だいじょうぶ？」

と、声をかけてくれて、わたしのランドセルや水とうを持ってくれました。ポケットからティッシュを出して、血をふいてくれた子もいました。

まだまだきずは、いたかったけれど、みんなのやさしい気持ちが、とっともうれしくて、歩けそうな気がしてきました。

いたくて、よろよろしながら歩きだすと、はん長のお姉さんがわたしの手をにぎって、学校に着くまでいっしょに歩いてくれました。はん長のお姉さんの手はやさしくて、わたしはとっともうれしかったです。男の子たちも、自分のランドセルだけでも重たいのに、わたしのランドセルや水とうを持って、学校までがんばって歩いてくれました。

学校に着いてみると、もう登校時間は過ぎていて、先生が心配してまってくれていました。

はん長のお姉さんが先生に、

「陽奈子さんが田んぼ道でころんで、けがをしたので、歩いてくるのがおそくなりました。」

と、せつ明してくれました。

そのときは、いたくて、何も考えられなかったけれど、みんなのとう着がおくってしまうのに、わたしの歩く速さに合わせて、ゆっくり歩いてくれたことに後から気がつきました。

みんながやさしくなかったら、けがをしたわたしは、おいていかれて、一人で泣いていたと思います。登校はんのみんながやさしかったからこそ、学校までこられたと思います。

一人ひとりのやさしい親切が、本当にうれしくて、ありがたくて、わたしにとっては大きな親切でした。

「登校はんのみんな、あのときはとっとても親切にしてくれて、ありがとう！」